

イエス団報

賀川伝記の埋草を一つ

法人監事 中村 良平



以前に賀川記念館で閲覧した伝記の中で賀川豊彦が明治学院在学中の二年の間に図書館の司書の方にその猛烈な勉強振りを見込まれて、物心共に非常な援助を受けたという件があり、そのお人が学院を退職して大丸に入社したという記事、さらにそのご子息も大丸の社員であったという事まで私は記憶しておりません。ところがその伝記がいくら探索しても見付けられなかったところ、この度平成十四年に刊行された優れた著作「賀川豊彦 林啓介氏」の中で、その司書の姓名まで明記してあったので、伝記のすきまを埋める意味で寄稿させていただきます。

賀川豊彦は一九〇五（明治三十八）年に明治学院高等部神学予科に入学していますが、「…一報、明治学院にはすばらしい図書館がありました。ラテン語の文法書やサンスクリットの書物までありました。万巻の洋書を揃えている点で、その当時の日本で屈指の図書館でした。ありがたいことに司書の富尾留雄という人が彼に好意をよせてくれて、自由に書庫に入ったりして、すきな書物を借り出すことができたのです。神学はもとより、社会科学・人文科学・自然科学に関する内外の書物が整備され、とりわけ洋書の多い図書館は、彼にとつてはまさに宝の庫に思えました。パウン博士の「形而上学の原理」「純粹哲学原理」などに特に感化され、メモをとって勉強したといえます。（註①）

富尾留雄は明治学院を退職して関西に移住し大丸に入社しておりますが、すすめる人があつて財団法人神戸基督教育青年会（神戸YMC A）の理事に就任しています。この理事会（の議事録）では財団の設立者の一人中村平三郎が歓迎の辞をのべ、富尾新任理事が答辞をのべているのです。（註②）更に富尾留雄の御子息も大丸の要職を経た後、前記神戸YMC Aの理事長になられ一九九九年八月に帰天されました。

（註①）『時代を超えた思想家 賀川豊彦』（徳島出版株式会社発行）

（註②）昭和二年六月十四日開催の議事録入手

後記。以上の文章は「伝記」の意味も多少共あると思われるので、敬称は敢えて付けませんでした。なお富尾道隆さん及びご尊父の富尾留雄さんに関しては、神戸YMC Aの今井名譽顧問の御指導および中村和光主任理事の御協力があれば、この埋草の目を見なかつたと言えます。最後になりましたが、紙上より厚く御礼申し上げます。（神戸栄光教員）

者雄 鎮雄
 集信 田信
 行所 黒田
 所 黒田
 区 黒田
 通 黒田
 5-5-2
 0
 社 社
 学 学
 校 校
 法 法
 人 人
 法 法
 人 人
 団 団
 工 工
 団 団
 TEL: 078-221-9565
 FAX: 078-221-9566

賀川先生と私 緒方 彰

私と賀川先生との出会いは、一九三八（昭和十三年）年八月、胸部疾患で、香川県豊島へ療養に行くため、白木医師のアドバイスで、賀川先生へ手紙を出し、ハガキの返信を頂いたのが、初めであります。爾来、先生が召天される一九六〇（昭和三十五年）年迄の二十二年間が先生と私とお交わり、即ちご指導を受けた期間です。中でも第二次大戦中の、昭和一三年から、一九年までの間、一年八ヶ月あたり、二回、通算三年余の豊島における、先生とのお交わりの一節は、私の後の人生の進路に大きな運命的方向を定められた時であったと思われまふ。豊島の生活は、私にとつては、病氣との戦いでありましたが、その間、友人への伝道、友人に助けられ、病氣への危機を脱出できたこと。またその間に、聖靈の経験を通して、キリスト教の信仰の奥義を体得すると共に、実践の経験（日曜礼拝の奨励）をすることが出来た貴重な機であり、また、場所であったと思われまふ。私は、昭和一七年八月初旬、二回目の豊島の療養に出かけ、蛭子ヶ浜の賀川先生の宿舎、ウエスレー館の隣の小さな三帖の部屋を提供して頂いた。着いて一週間も経たない早朝、急に胸が苦しくなり、咳きついて、口から真っ赤な血を吹き出しはじめました。近くの部屋に寝ていた、小川克子さんが、私の部屋を覗いて、大変だ！と叫び、金だらいを持ってきて、それを受けて下さり、私の背中をさすって下さった。嗜血はまもなく止まった。小川さんは、「緒方さん、しばらく絶対安静にして動いてはいけませんよ」と言つて、コップの水で、口中をうがいし洗って下さった。それから、約百日間、その部屋へ食事を運んで下さって、只々療養に努めました。一方、賀川先生は、一九四〇（昭和一五年）年八月、憲兵隊事件で十八日間、巢鴨拘留所に拘留され、その後釈放され、十月より豊島に引籠り、著述に専念の傍ら、療養中の青年、女子の世話をされ、ヒモちゃんに協力して、病人達と一緒にのテンプルで聖書を読み、祈りを捧げ、一同と共に食事をする生活を続けられました。その頃の賀川先生は、早朝四時ごろ近くのゲツセマネの丘と呼ぶ小山へ登り、早朝の祈りを毎日のように捧げておられました。豊島で先生に教えられたことは、病氣を治すのは薬ではない。精神療法、及び作業療法を強調され、軽い農作業や運動（山の枯れ木取り、ランプの清掃、水汲み等）精神療法では信仰を固く持ち、聖書を読み、祈りを毎日続ける。また新鮮な魚、野菜の摂取ときれいな空気を十分に吸うこと等に心掛け、たとえ医師の薬はなくても病氣は天与の力で癒されることを懇々と教えられた。こうした、豊島の信仰と自然生活により、多くの青年達は癒され、それぞれの郷里へ帰った。私が今日あるのは、一にかかつて、豊島で賀川先生から精神生活の基礎をなす信仰を保持したのと、自然生活に生きたことによるものとあらためて感謝するものです。

● 社会福祉法人の動き

1 理事会の報告（定員11名、現員11名）

今年度は計5回の理事会を開催し、36の議案について討議しました。

①5月24日、01年度の事業報告、決算など5議案

②7月30日、施設長人事、工事関連など10議案

③12月3日、各施設上程議題、施設長人事など8議案

④2月12日、03年度事業計画、定款変更、企画委員会の答申など8議案

⑤3月6日、02年度補正予算、各施設上程議題など5議案

2 評議員会の報告（定員27名、現員24名）

評議員会は2回しか開催できませんでした。12の議案を討議しました。

①5月24日、01年度の決算・事業報告など4議案

②3月6日、02年度補正予算、03年度事業計画・予算など8議案

3 常任理事会の報告（1回）

企画委員も参画し、拡大常任理事会として研修会、各規定、組織について討議しました。

①10月18日、02年度雲柱社・イエス団合同施設長研修会、慶弔規定、役員報酬規定、企画委員会分科会の検討結果報告

4 企画委員会の報告（6回）

企画委員も多忙な日常の業務外に6回の委員会を開催し、雲柱社との合同施設長研修会の企画立案をはじめ、運営上の諸問題についての対応策の立案等に取り組みました。

①4月25日、6議案 ②6月13日、4議案 ③7月11日、5議案 ④8月29日、5議案 ⑤11月14日、6議案 ⑥1月16日、6議案

5 編集委員会の報告

イエス団報 再刊4号を、02年8月20日に発刊しました。

6 研修会の報告

今年度は理事長をはじめ、常任理事、企画委員のご協力を得て、以下の研修会を開催しました。

① 第6回 会計研修4月23日 眞愛ホーム（32名参加）

② 合同施設長研修 11月25、26日 東京サニーサイドホテル

③ 全体研修と連帯の集い1月27、28日 富士ゼロックス スペースアルファ神戸（42名参加）

④ 新任職員研修 3月24、25日、

関西セミナー（新任65名・講師、理事、スタッフ11名参加）

7 施設長人事

・02年9月30日付 天使保育園北分園 小川英里園長退任（02年10月1日、嶋田良介兄就任）

・03年3月31日付 野の百合保育園 難波俊子園長退任（03年4月1日、恵大一郎兄就任）

・03年3月31日付 光の子保育園 黒田 絢園長退任（03年4月1日、黒田信雄兄就任）

・03年3月31日付 神戸保育専門学院 川上ミドリ院長退任（03年4月1日、廣瀬満泰兄就任）

8 その他の事項

* 4月11日にシサム開所式がもたれました。

* 6月1日に一麦保育園70周年記念式典がもたれました。

* 懸案の定款変更は、福祉法準則に再変更の上、厚生労働省に進達する旨提示（作業中）

● 学校法人の動き

1 理事会・評議員会の報告（理事定員8名、現員8名）（評議員定員17名、現員17名）

02年度、以下の通り3回の理事会（内2回は評議員会合同）が持たれ、二葉幼稚園の運営上の諸問題について討議しました。

①5月24日（理事、評議員会）01年度決算事業報告など2議案

②7月30日（理事会のみ）01年度決算修正、運営委員会設置など3議案

③3月6日（理事会、評議員会）任期満了に伴う役員等改選について、03年度事業計画、予算など4議案

2 役員改選（03年4月、07年3月の任期）

・理事 今井鎮雄

・理事 長谷川進一郎、石田正弘、田中芳三、吉田 撰、小川 居、村山盛嗣、木村量好

・監事 山口政紀、中村 清

・評議員 今井鎮雄、長谷川進一郎、石田正弘、田中芳三、吉田 撰、小川 居、村山盛嗣、木村量好、森 彬、黒田 絢、鞍 好子、吉田洋子、長谷川其枝、田村三佳子、藤森信子、藤井繁一、藤森敏夫

3 運営委員会の設置

・木村量好、小西孝彦、長谷川進一郎、村山盛嗣、奥田和弘、中村 清、長谷川其枝、吉田 撰各委員

・12月10日、3月11日、2回開催

● その他特記事項

・私たちの今井理事長が02年5月2日、兵庫県功労者として「県勢高揚功労」に選ばれ、28日に表彰されました。

● 本部事務局より

※00年4月から法人本部事務局で辣腕を振るってこられた川田幸一兄が、03年6月末をもって職を退かれることになりました。会計基準が変わった時期で、法人会計のコンピュータ化と法人連帯の強化に力を注がれました。同兄のご尽力に感謝し、これからの活躍をお祈りいたします。

各ブロックの動き

〔兵庫ブロック〕

甲子園二葉幼稚園：一九二三年に西宮市における最初の私立幼稚園として設立されてから創立八〇周年を迎えました。神の豊かな導きを感じています。



各ブロックの動き

〔兵庫ブロック(続き)〕

友愛幼児園：食事を大切にされた賀川先生の園として、保育の年間指導計画があるのに、食事に関するものが今までなかったのはおかしい、との問題提起があり、今年度は食事・おやつに関わる年間実施計画を作成しました。

杉の子保育園：花の日礼拝後、ひまわり組(5歳児)が花束をもって水上消防署を訪問しました。署員より消防車の説明の後、園児と保育士が梯子車に乗せてもらい、怖いながらも大喜びでした。

真愛ホーム：個別・ユニットケアに取り組んでいますが、今年度はサービスの中味の工夫に加え、施設設備の家庭化を進めようとしています。

神視保育園：時代を超えた思想家「賀川豊彦」を全職員が読後レポート提出。使命について考えた。正面入り口に掲示板を設置。運動場も改修しました。

みどり野保育園：六月から月二回、三々五歳児を対象に、土佐堀YMC Aから講師を招いて、運動遊びを始めました。基礎運動能力の向上が目的です。

一麦保育園：震災後の区画整理事業で、園のすぐ近くに一畝(約三千坪)の公園が来春完成予定で、工事が進んでいる。園外保育に大いに利用できるのを楽しみ。

神戸保育専門学院：川上ミドリ学院長が三月末をもってご勇退のあと、廣瀬満泰牧師が後任として着任され、学院も新しい体制のもとでの歩みを始めました。

天隣乳児保育園：ベテラン主任が定年退職。守っていくべきもの、新たに取組むもの、新メンバーでとことん話し合い、後は行動するのみ！ファイト。

のぞみ保育園：開園二十三年目にして男性保育士を採用した。目下、更衣室など内部の改装に頭とお金を使っている。

賀川記念館：当館学童保育では、現在四十五名の在級生の内、中高生も含む五名の障がい児を保育しています。行政に対する長年の要望が実り、厳しい神戸市の財政にも関わらず、助成金が四二万から六九万の増となりました。

〔大阪ブロック〕

天使保育園・天使ベビーセンター・天使北分園保育園：今年度は新人職員を十名も採用し、若い力で活気にみちています。給食室も全員有資格者となり、今までとは一味も二味も違います。教会の方も新しい伝道師の水谷先生を迎え、若人たちが明日はどんな風を起こしてくれるのか楽しみです。

くずは光の子保育園：定員九〇名から一二〇名にスムーズに移行でき、今年度は第三者評価と分園の準備の年として励みたい。

楠葉新生園：私達ケアハウスは、今年一〇周年を迎え、充実・活力を図る意味でイベントを計画中です。

1 記念式典と祝会 ○四年三月六日

2 記念誌発行(二〇〇〇部)

3 「記念バザー」○三年十一月三日

4 施設内部修理

5 必要な募金活動

愛之園保育園：今年度は、お便りの充実を計ろうと園だよりなどにかわいい名前をつけ、毎月楽しみになるよう推敲を重ねています。

馬見労働保育園：働くこと、生活すること、育てることがますます難しくなっていく社会の情勢をふまえて、保護者との話し合いを大切に、両者のよき関係によって、子どもの幸せな成長を保障していくように努める。

〔四国ブロック〕

二〇〇三年度、坂出育愛館は、年度当初定員を超える一五七名でスタートし、途中入所により七月現在一六八名の園児が在籍。新年度の始まった4月に豊島において四国ブロック施設長会が開催され、豊島神愛館の子どもたちが次々に健康を損ない、職員が休日返上で勤務されている現状報告と応援依頼を受け、当園の職員が交代で一ヶ月間、豊島神愛館に向かった。

Iコリント十二章に「体は一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」とあるように、施設集合体で連帯意識が希薄という側面をもつイエス団にあって、それぞれの施設がイエス団という体の部分であり、主に用いられている器であること示される機会を与えられたことを感謝しつつ、本年度は特に緊急一時保育、学童保育の要望が多く、職員共々ががんばっている。(報告：品川卓也)

〔京都ブロック〕

さる2月5日の京都ブロック会議の中で確認したことを受け、第1回愛隣館各施設・事業間連絡会議を七月十六日に開催いたしました。目的は、子どもから大

人まで、愛隣館が提供する福祉事業を必要とし、それを利用することによって、その人らしい生き方がより豊かさを増し、生き生きしたものとなるために、愛隣館で各業務に従事するものが、思い・理念を共有し、心をひとつにして、「人に仕え、地域に仕え」る実践をより強化することにあります。

参加施設・事業は、愛隣館研修センターより「愛隣デイサービスセンター・向島障がい者地域生活支援センター「遊隣」・重心通所B型「シサム」・障がい者生活支援事業「あいらん」・障がい者ホームヘルプ事業「ゆうりん」、空の鳥幼児園。野の百合保育園です。

前掲の目的・意義を確認した後、各施設・事業の現状を報告しました。その中でも特に、研修センターの主要事業のデイサービス、今年度より開始したホームヘルプ事業が新しく、支援費制度に変わり、利用者が大幅に増えました。また、それぞれに「契約」を必要とし、サービステキニ提供実績をまとめ、それに基つき支援費を請求することになるため、事務量がこれまでと比べて著しく増加しました。それにより、適切なスタッフの配置の問題、利用者にとつての快適なスペース作りといった新たな課題が生まれてきているという事です。「社会福祉基礎構造改革」が規制緩和、市場原理に則つてすすめられようとしている中、通園施設、保育園のほうも、いずれは、その波に洗われるかという事が予測されます。

しかし、社会や制度がどう変わろうとも、イエス・キリストの実践に倣い、変えてはならない大切なこととは何かにこだわりながら、これからは愛隣館が一体となつて、この地域の中で歩んでいきたいと思つています。(報告：木村 耕)

イエス団の施設 ⑧

保育所

くずは光の子保育園

- ◎ 住所／大阪府枚方市楠葉朝日一丁目二十二ノ二
- ◎ 創立／一九七四年三月
- ◎ 定員／一二〇名
- ◎ 職員／三十七名
- ◎ 施設長／石田正宣



◆◆◆DATA◆◆◆

最奇りの交通機関：京阪「樟葉駅」からバスで「美咲」下車。西へ徒歩4分
TEL 072-856-8882 FAX 072-856-8895

一九七四年三月に建築された旧園舎は、老朽化に伴い、命の尊さを基盤に地域に根ざした保育園という事を願いつつ、二〇〇二年に改築を行いました。

定員を九〇名から一二〇名に増員し、バイキングができるランチルーム・子育て支援室・プレイルームを増やしました。二階保育室は全室、壁が可動式になっており、用途に合わせて部屋の大きさを変えることができます。又、ベランダを広く取り、大きなプールを置いて、のびのびとプール遊びができるようにしました。三階屋上は、サッカーができるようネットを張り、年中長児が週一回、サッカーを楽しんでいます。園庭は少し狭くなりましたが、その分広いベランダ、廊下、屋上で補っています。内装は、各クラスの年齢に合った色彩を選び、全室冷暖房完備で、子供達も快適な日々を過ごしています。外観に負けない保育をしよう！と職員達も励んでいます。



イエス団の施設 ⑨

保育所

桃陵保育園

- ◎ 住所／京都市伏見区桃陵町1
- ◎ 創立／一九七三年四月一日
- ◎ 定員／六〇名（9年後九〇名に増）
- ◎ 職員数／施設長一名、保育士九名、調理師2名
- ◎ 施設長／木村淳子



◆◆◆DATA◆◆◆

最奇の交通機関：JR「京都駅」より近鉄「桃山御陵」駅下車徒歩5分
TEL:075-611-3307 FAX:075-612-1421

一九六五年桃陵乳児保育園が設立され、乳児から幼児となった子どもたちの行き場がなく幼児部増設の要望が噴きだした。保護者、地域住民と共に増設運動を始めたが土地取得の事で難航した。6年間の粘り強い運動が実り、国有公園の一部を京都市が借りる形で設立が決まった。公設民営の形態となり、建築設備はすべて京都市が担い経営をイエス団に任せられた。乳児部でも借金返済が始まったばかりで、この公設民営はありがたかった。乳児部の団地の中の閉塞感が広い公園に囲まれたこの幼児部設立で、両園共にゆったりとした解放感を感じる事が出来るようになった。

当園の保育の理念、総主題はすべて乳児部と同じもので「共に生き共に育つ」副主題「平和を見つめて」として、私たちが神に創られ、生かされていることを保育の原点におきつつ、キリスト教保育を行っている。2回の増改築で新しいホールも与えられ、園児達の日々の活動が豊かに支えられ、近隣の子育て支援の場としても用いられている。

《編集後記》

※再刊第5号をお届けします。お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございます。次号からは、現場の職員の方からの投稿を掲載できればと願っています。(信)